

県立図書館だより

平成22年2月

青森県立図書館報 第6号

読書は心を暖める

あおもり冬の読書週間

県内の読書関係団体・機関で組織する青森県読書推進運動協議会では、青森の長い冬の過ごし方として、家族揃って読書する習慣を浸透させるため、今年が「国民読書年」と定められたのを機に、小寒から大寒を挟んだ**1月5日(火)から25日(月)までの3週間を「あおもり冬の読書週間」と**制定しました。

この期間中、県立図書館をはじめ県内市町村立図書館等において、様々な関連事業が開催されました。

県立図書館では、1月4日(月)から27日(水)までの期間、図書のテーマ展示「教科書～新発見！家族で話そう 教科書の今と昔～」を行いました。

●児童閲覧室

親子一緒に読んでもらいたい小学校の国語教科書に掲載された作品の展示



●一般閲覧室

教科書掲載の郷土作家作品や親子で共通の話題となるような作品の展示



その他、教科書の歴史を紹介する展示や教科書にちなんだ資料展示を行いました。

また、県内の16市町村においても、冬や県人作家に関する展示やおはなし会、カルタ大会、読書マラソンなど、家族で楽しめるイベントが開催されました。

県立図書館では、来年度以降も「あおもり冬の読書週間」の期間中、関連事業を実施する予定です。

目 次

あおもり冬の読書週間	1
児童閲覧室利用者100万人達成！！	2
県内大学等図書館との連携・協力について	3
こんなレファレンスがありました	4～5
子どもの本の紹介	6
郷土資料の紹介	7
近代文学館資料の紹介	8
カウンターから一言	9～10

児童閲覧室 利用者100万人 達成！！

青森県立図書館児童閲覧室は、青森市新町から現在地に移転新築し、平成6年3月に開館しましたが、「国民読書年」という記念すべき今年、児童閲覧室の利用者が**100万人を達成**しました。

平成22年1月30日（土）、100万人目の利用者となったのは、青森市の山本 樹（いつき）さん（小学校1年生）で、「**児童閲覧室利用者100万人達成記念イベント**」において、尾崎 光蔵館長から、認定証と記念品が贈られました。

記念品として、図書館職員手作りの「豆本セット」を受け取った樹さんは、「まだ読めない字もあるけれど、うれしい。」と、笑顔で話してくれました。

最後は、一緒に来たお父さん、お母さんと並んで記念撮影。大切な思い出になったことと思います。



児童閲覧室は、週末ともなると、たくさんの親子連れで賑わっています。

閲覧室内では、約25,000点の絵本や児童書を手にとって閲覧することができ、お話しコーナーでは、毎月第2土曜日に「おはなし会」、第4土曜日に「科学おはなし会」を開催しています。

また、毎月、テーマを変えての図書展示を行うなど、子どもの読書活動を支援する取組みを進めています。

これからも児童閲覧室をどうぞご利用ください。お待ちしております。



★児童閲覧室からのお知らせやイベントなどは、「**青森県立図書館 こどものへや**」(<http://www.plib.net.pref.aomori.jp/top/kodomo/index.html>) で案内しています。

県内大学等図書館との連携・協力について

県立図書館では、県民の多様かつ高度化する生涯学習を支援するとともに、地域を支える情報拠点として、地域の課題解決や振興を支援するため、専門書など大学等図書館が所蔵する豊富な資料を県民が手軽に利用できるよう、県内の大学等図書館との連携・協力に係る協議を進め、昨年、次の大学等図書館と協定（覚書）を締結しました。

大 学 等 図 書 館 名	協定月日
弘前大学附属図書館	平成21年10月 1日
青森県立保健大学附属図書館	平成21年 9月30日
青森中央学院大学・青森中央短期大学図書館情報センター	平成21年 9月30日
弘前医療福祉大学総合図書館	平成21年 9月30日
八戸大学・八戸短期大学図書館	平成21年 9月28日
北里大学獣医学部図書館	平成21年 9月30日
青森明の星短期大学図書館	平成21年 9月30日
八戸工業高等専門学校図書館	平成21年 9月28日

横断検索

上記協定（覚書）に基づき、平成21年10月より、**弘前大学附属図書館、青森中央学院大学・青森中央短期大学図書館情報センター、八戸大学・八戸短期大学図書館、八戸工業高等専門学校図書館**が県立図書館の横断検索システムに加わりました。

これにより、県立図書館ホームページ上の「県内公共・大学図書館横断検索」から、この4大学等図書館の資料も一括検索できるようになりました。

● **リンク先**：県内公共・大学図書館横断検索 <http://www.plib.net.pref.aomori.jp/opac/CrossServlet>

相互貸借

以下の大学等図書館については、横断検索が可能になったのに加え、県立図書館の搬送車を利用した相互貸借も開始しました。

このことにより、大学等図書館が所蔵する資料を、県立図書館で取り寄せし、借受け・返却することができるようになりました。お取り寄せは無料です。

弘前大学附属図書館（本館）	平成21年12月 3日より開始
★ 一人5冊まで 約2週間借りられます。 （医学部分館の所蔵資料は、対象外となります。）	
八戸大学・八戸短期大学図書館	平成21年12月 3日より開始
★ 一人5冊まで 約2週間借りられます。	
八戸工業高等専門学校図書館	平成22年 1月 5日より開始
★ 一人5冊まで 約2週間借りられます。	

● **問合せ・申込み先**：県立図書館 参考・郷土室（レファレンス） 電話 017-729-4311

県立図書館では、横断検索や相互貸借の拡充に向けて、今後とも大学等図書館と協議を進めて参ります。

こ んな レファレンスがありました

(第6回)



参考・郷土室では、「探している本が、どこの図書館にあるのか知りたい。」「こんなテーマの本はありますか。」「こういう事柄や人物を調べたいが、どんな本がありますか。」などというレファレンス（質問）に、図書館資料等を使って、お答えしています。

そのたくさんのレファレンスの中から、毎回、事例を紹介していきます。

【質問】家紋の「対い鶴」（むかいづる）について、青森県、特に南部地域では「鶴」の紋が多いと聞いた。

地域資料として家紋をまとめたものがないか。また、参考資料も紹介してほしい。（北海道の方からのご依頼でした。）

【回答】

郷土関係資料を調査しましたが、「家紋」をまとめた資料は確認できませんでした。

調査の過程で参考となる資料がありましたので紹介します。

ご質問の中で、「青森県、特に南部地域では「鶴」の紋が多いと聞いた。」とありますが、数値を確認できる資料がありました。

『都道府県別姓氏家紋大事典 東日本編』（千鹿野 茂著 柏書房 平成16年刊）では、都道府県ごとに地域、名字、名字ごとの紋を紹介しています。また、県全体と地域別に、「鶴紋」といった大きなくくりでの比率も載っています。

青森県全体での「鶴紋」は、12位で2.86%となっており、西部（青森市、弘前市など）では10位で2.98%、東部（八戸市、十和田市など）では12位で3.03%となっています。

他県では1%前後であることから、青森県での比率が高いことが分かります。

同資料の「鶴紋」の解説では、「徳川時代には、大名では諏訪、森、南部、鳥居の諸氏が、幕臣では実に180家余が用いた。」とあり、「青森県の家紋と姓氏」の項では、「鶴紋、花菱紋が多いのは、南部藩の影響である。」と書かれています。

南部藩主の系統で使われていたのは「対い鶴」で、中でも鶴の胸に九曜がある「南部鶴」という紋です。

【参考資料】

『日本家紋大事典』

（丹羽 基二著 新人物往来社 平成20年刊）

『日本の紋章』

（伊藤 幸作著 ダヴィッド社 昭和40年刊）



南部氏の5家（盛岡・八戸・七戸南部と一門2家）は、いずれも「南部鶴」を使用しています。

南部氏は現在の青森県と、秋田・岩手県の一部を治めていましたので、前述の「鶴紋が多いのは南部藩の影響」とする『都道府県別姓氏家紋大事典 東日本編』の記述も理解できます。

今回の調査の中で、青森県では「藤紋」や「木瓜紋」が多いことや、日本の紋は左右対称のものが多く、また、左右対称に見えても、対い鶴では片方が口を開け、もう片方は口を閉じているものがあり、「阿吽」（あうん）の相を表していること、さらに、両方とも口を閉じている場合には、一羽は脚を上げているものがあることなどがわかりました。

また、日本では嫁の実家を重んじ、その家を宣明するために実家の紋を付けさせる「女紋」（おんなもん）のしきたりがあることなど、大変興味深いことがたくさんありました。

家紋は約2万種、姓氏は約30万と言われているので、家紋から名字を明確にたどることはできないそうですが、皆さんの家紋と多くの美しい図柄、そして、その成り立ちや文化に触れてみてはいかがでしょうか。

【参考資料】

『平成新修旧華族家系大成 下巻』

（霞会館華族家系大成編輯委員会編纂 吉川弘文館 平成8年刊）

『南部藩参考諸家系図 1～5巻』

（前沢 隆重ほか編 国書刊行会 昭和59年刊）

『八戸の歴史叢書 八戸藩士系譜書上』

（八戸市立図書館市史編纂室編 平成13年刊）

●レファレンスは、電話・手紙・FAXのほか、電子メールでも受け付けています。

レファレンス申込み及び問い合わせ先

青森県立図書館 参考・郷土室

電 話 017-729-4311

FAX 017-762-1757

電子メール sanko@plib.net.pref.aomori.jp

子どもの本の紹介(第6回)

青森県には、祖父母や親から語り継がれた昔話や民話がたくさんあります。

今回は、そのようなお話がたくさん載っている本をご紹介します。



『読みがたり青森のむかし話』 青森県小学校国語研究会、青森県児童文学研究会:編 日本標準 2005 (児388J ヨカタ、児郷388A アオモリケン 2005)

「いたずらぎつね」…昔、十三湖の周りに、人間にいたずらをしては喜んでいるきつねがいました。村人は弱り果てていましたが、力も度胸も村一番の豆腐屋の藤次郎が捕まえることになりました。

「ふしぎなお寺」…若い旅の和尚さんは、日が暮れてしまったので、一晩お寺に泊めてもらうことになりました。そこは、今まで泊まった人たちが、次の朝にはみんな殺されてしまうという、とんでもないお寺だったのです。

この2編のほか、たくさんの昔話が収められています。

『青森県の民話』(県別ふるさとの民話 39)

日本児童文学者協会:編 偕成社 1982 (児388J ニホンジ(39)、児郷388 ニホンジトウ)

「ねぶた祭りのおこり」や「八の太郎」など、青森県で語り継がれてきた伝説のほかに、「恩をかえしたニワトリ」の現代民話、「とんちの繁次郎」という“とんち”の名人が登場する話など、たくさんのお話が収められています。

そのほかにも、こんな本があります。

『読んできかせる津軽むがしコ』

木村 功:著 文芸協会出版 1973 (児郷388A キムラ*イ)

『ふるさとの民話』

青森県児童文学研究会:著 津軽書房 1967 (児郷388A アオモリケン)

『瓜姫コとアマンジャグ』(よんであげたい青森のむかし話 1)

佐々木 達司、村田 良子:再話 青森県文芸協会出版部 2009

(児郷388A ササキ*タ)

ほか

ご紹介した本には、今のお父さんお母さんが、子どもの頃に聞いたお話も含まれていると思います。中には古くから使われた青森の方言で書かれている本もあり、子どもには少し難しいかもしれません。

ぜひ、お父さんお母さんをはじめ、おうちの方が本を手にとって、声を出して読んであげてください。親世代は懐かしさに浸り、子どもたちは新鮮な物語を楽しむことができるのではないのでしょうか。



郷土資料 の 紹 介 (第6回)

今からちょうど20年前の1990年3月、林野庁は、青森・秋田両県にまたがる白神山地を森林生態系保護地域に設定しました。

さらに同年7月には、日本自然保護協会が「白神山地のブナ原生林と南西諸島の特異な生物相およびその生息地」を候補地として、「世界遺産条約の早期批准に関する意見書」を国に提出しました。

これが契機となって、豊かなブナ原生林が広がる白神山地は、1993年12月にユネスコの世界自然遺産として登録されました。

いよいよ今年の12月に迫った東北新幹線の全線開業に伴い、青森県の四季を彩る豊かな自然の代表とも言える白神山地は、ますます注目を集めています。

そこで今回は、思わず白神山地に行ってみたくなるような資料や、本県を訪れる人をぜひ白神山地に案内したくなるような資料をいくつかご紹介します。

『わが心の白神 世界遺産白神山地』(竹越恵蔵著 日本カメラ社 2009)

世界自然遺産に登録されるずっと以前から白神山地に分け入り、その様子を撮影し続けてきた深浦町出身の著者による、厳しくも美しい自然の風景を収めた写真集。

『白神山地 花ガイドと四季の風景』(米澤いさお著 黒滝書店 2009)

白神山地に自生する花142種やその他の写真と解説を収めた小型図鑑。

弘前市出身の著者は、白神山地の現役ガイドを務める。

『地図で旅する日本の世界遺産 004 白神山地』(東京地図出版 2008)

白神山地の白地図と周辺道路地図、宿、交通情報のほか、津軽の歴史や見所にも触れた、盛りだくさんな内容のガイドブック。

『ブナ林の四季・白神山地』(府瀬川秀司著 そうえん社 2008)

白神山地とそこに住む生き物の様子を通して、かけがえのない自然の大切さを子どもたちに分かりやすく伝える写真絵本。



青森県立図書館では、青森県に関する資料や、青森県内で刊行された資料、青森県在住者・出身者の著作物などを郷土資料として積極的に収集し、永く保存するとともに、県内外の皆様に広くご利用いただいております。

今後ともこのコーナーでは、当館所蔵の郷土資料の中から、普段はあまり人目に触れる機会の少ない貴重な資料などをご紹介します。

近代文学館資料の紹介(第6回)

菊池仁康『露西亞二十一人集』・村次郎 詩集『忘魚の歌』

青森県近代文学館では、新収蔵資料展「ロシア文学者 菊池仁康」を開催しています。会期は3月22日までで、併せて「詩人 村次郎」コーナーも見ることができます。今回は、展示中の二人の文学者に関する資料をご紹介します。



菊池仁康訳『露西亞二十一人集』

善文社 1922年

菊池仁康（1895-1967・板柳町出身）は、板柳銀行頭取、青森銀行取締役、菊屋百貨店社長などを務めた実業家ですが、若き日にロシア文学の翻訳活動をしていたことは、あまり知られていません。『露西亞二十一人集』は、プーシキン、トルストイ、チェホフなど、ロシア文学史に登場する著名な作家21人の作品を菊池が翻訳し、大正11年に出版したものです。青森県のロシア文学翻訳の草創期、若き日の菊池仁康が、ロシア文学に情熱を傾けていた証です。青森県立図書館所蔵の貴重な一冊を展示しています。

村次郎 詩集『忘魚の歌』 「あんなっす」社 1947年

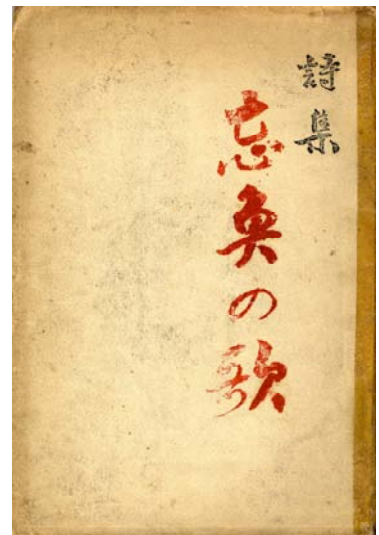
村次郎（1916-1997・八戸市出身）は、慶応大学在学中に詩作を始めました。詩誌「山の樹」、「四季」、「三田文学」等に作品を発表し、将来を嘱望された詩人でした。

昭和27年、家業・旅館「石田家」の再建に専念するため詩人廃業を宣言しますが、その存在は、三浦哲郎をはじめ郷里の後輩詩人・文学者に大きな影響を与えました。

この第一詩集『忘魚の歌』には、大学時代の昭和12年から応召直前の昭和17年までの作品62編が収められています。

「海を渡ってくる鷗のやうだ／おまへは涙で一杯だ……」（「朝」）

故郷の風物や青春時代の孤独を独特の感性で歌ったこの珠玉の詩集は、戦後の物資窮乏の中、謄写版刷りにより50部限定で刊行されました。「幻の詩集」とも言われた貴重な詩集です。



カウンターから一言 (第6回)



今回は、閲覧室にある蔵書検索端末を利用して図書を検索する方法について、ご案内します。



図書を検索するには、「かんたん検索」と「検索」のどちらを選びます。

「かんたん検索」では、タイトル（題名）や人物名（著者等）がわかっている場合、入力することにより、

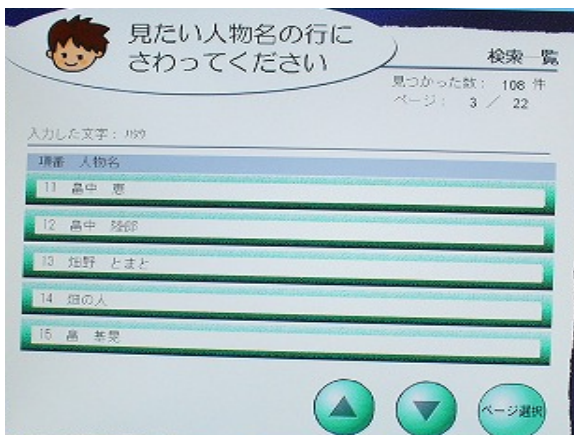
- ①所蔵の有無
- ②どこに配架されているか
- ③現在、借りることができるかなどが確認できます。

「検索」では、タイトルがあいまいだったり、読みたい本が決まっていない場合、複数の事項を入力することにより、図書を特定していきます。

例えば、「本田宗一郎」を検索すると

- a. **タイトル**に「ほんだそういちろう」と読み仮名で入力すると、題名や副題に「本田宗一郎」と「本田総一郎」を含んだ図書が検索されます。
- b. **人物名**に「ほんだ…」と入力すると、「ほんだ…」の著書が検索されます。
- c. **テーマ**に「ほんだ…」と入力すると、「ほんだ…」について書かれている図書が検索されます。

検索方法は、**AND検索**（a かつ b かつ c）と**OR検索**（a 又は b 又は c）のどちらかを選ぶことができます。



このほかにも、便利な検索機能について、いくつかお知らせします。

①著者名を誤って覚えている場合

例えば「畠中恵」を「畠山恵」と間違えて覚えていた場合、「はたけやまめぐみ」では該当がなく、「はたけやま」で検索しても、それらしい著者が出てきません。

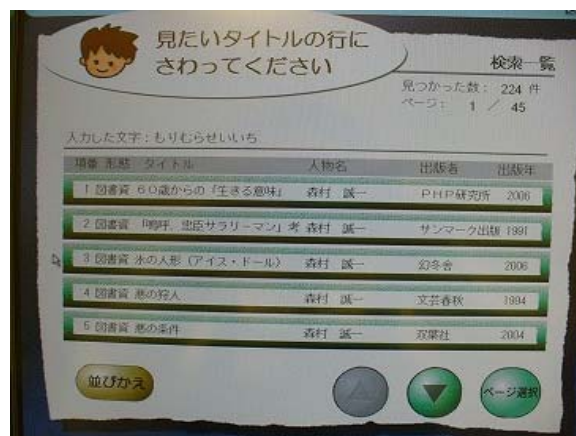
その場合は、確かである「はたけ」だけを入力して、「はたけ」から始まる著者の一覧から該当する著者を探し出します。

②特定の著者の過去の作品を読みたい場合
例えば、「森村誠一」のこれまでの著書を検索してみます。

人物名に「もりむらせいいち」と入力し、**並びかえ**を選び、次に**刊年**→**昇順**を選択すると、出版年の古い順に並びます。

同様に、**刊年**→**降順**を選択すると、出版年の新しい順に並びます。

2階や3階の書庫にしまっている比較的古い本は、レシートを印刷してカウンターにお持ちください。



③著者が外国人の図書の場合

姓と名の順番を、登録データと逆に入力すると、検索できません。

その場合は、姓又は名のみ入力すると、見つかる場合があります。

また、「シェークスピア」と入力した場合、「シェイクスピア」などを含めた14件が表示されますが、「ジェームズ」と「ジェイムズ」などの場合には、別人として検索される場合があります。

検索がうまくできないときは、カウンター職員に気軽にお声がけください。

④「少しお待ちください」の画面から動かなくなってしまった場合

検索条件に該当する図書がない場合や多数の場合には、「**少しお待ちください**」と表示されます。

長時間、表示されたままの場合には、カウンター職員にご相談ください。

蔵書検索端末には、検索機能以外にも、現在の借り受け状況の確認や、貸出中の図書を予約する機能もありますので、ぜひご利用ください。



編集後記

ホームページを活用しての「県立図書館だより」第6号は、トピックスとして、児童閲覧室利用者100万人達成の様子もご紹介しました。

県立図書館では、2月24日(水)まで、一般閲覧室と児童閲覧室において「鬼 再発見!」と題したテーマ展示を行っています。鬼に興味のある方や鬼と呼ばれている方?の来館をお待ちしております。(広報委員会)